LEVEL 3

の野ばら

原作（げんさく）：小川未明（おがわみめい）

★読む前に　Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

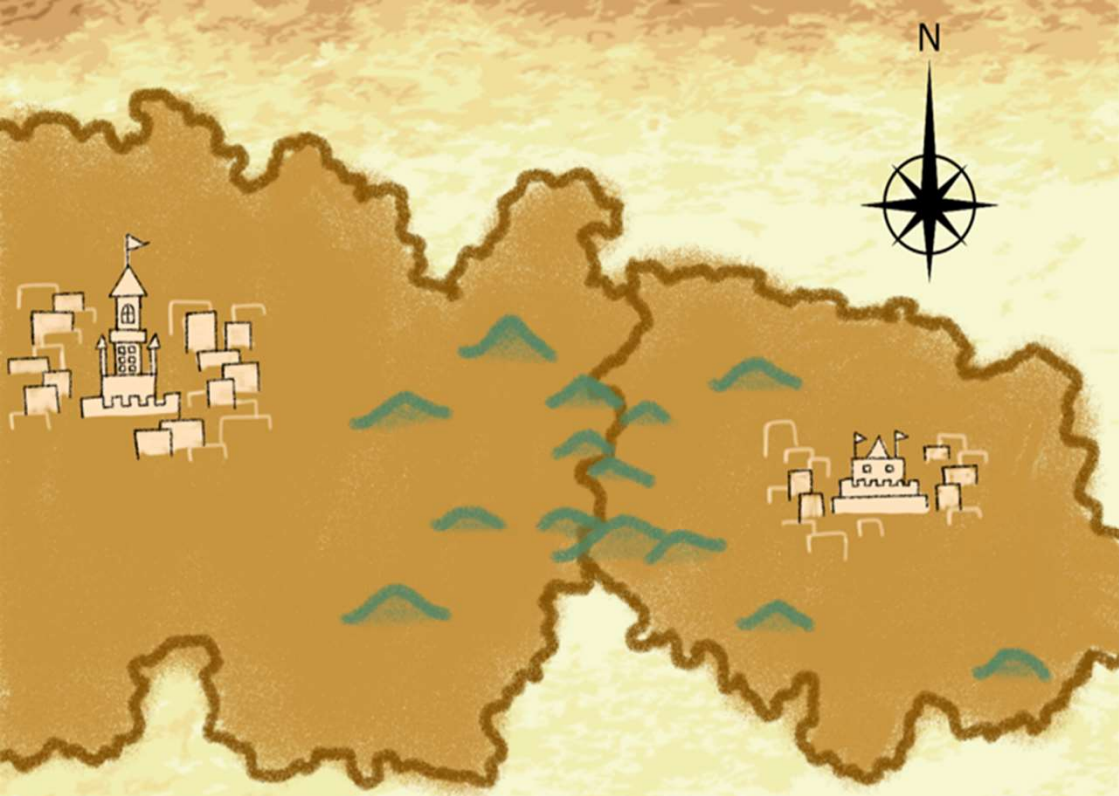
次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む

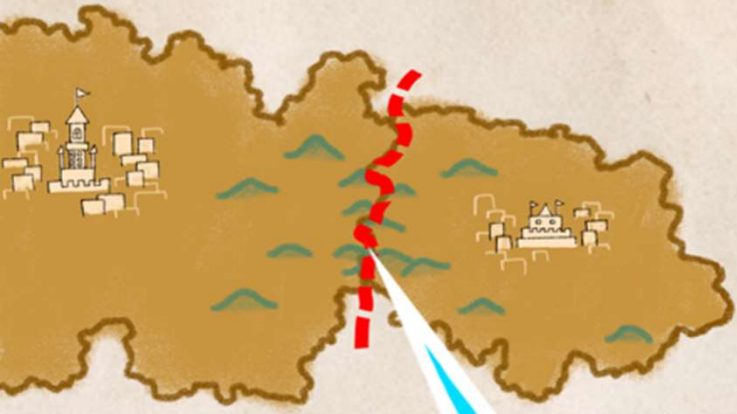
《How to do Tadoku》

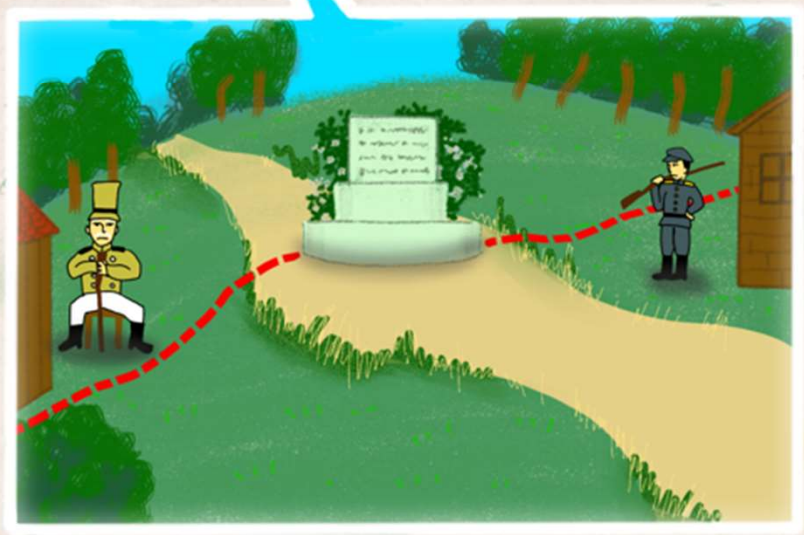
Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. **Start from scratch.**
2. **Don’t use a dictionary.**
3. **Skip over difficult words, phrases and passages.**
4. **When the going gets tough, quit the book and pick up another.**



大きい国がありました。
その隣に、それより少し小さい国がありました。
2つの国の人たちは、楽しく静かに暮らしていました。
とても平和でした。





ここは町からとても遠い、田舎の山の中です。
道に石碑が立っていました。ここは「国境」です。
この国境を、2つの国から来た兵士が守っていました。
大きい国の兵士は老人で、小さい国の兵士は青年でした。
2人の兵士は鉄砲を持って、毎日、石碑の右と左に
立っていました。
とても寂しいところで、ほとんどだれも通りません。

2人(ふたり)は、はじめは全然(ぜんぜん)話(はな)しませんでした。
でも、だんだん話(はな)すようになりました。
他(ほか)に話(はなし)をする人(ひと)もいなくて、つまらなかったからです。
そして、春(はる)の日(ひ)が暖(あたた)かく、やさしく頭(あたま)の上(うえ)で
光(ひか)っていたからです。

石碑のところに野ばらが
咲いていました。
野ばらの周りには、
朝早い時間から
ミツバチが飛んできて、
集まっていました。

毎朝、ミツバチたちの気持ちのよい
「ブンブン・・」という羽の音が、
まだ寝ている2人の耳に
聞こえてきます。
「どれ、もう起きようか。
あんなにミツバチが来ている」
と、2人は同じ時間に起きました。

2人が外へ出ると、朝の日が木の上で
元気よく明るく光っていました。
2人は顔を洗いに、きれいな水が出ている
ところへ行きました。

「やあ、おはよう。いい天気ですな」
「本当にいい天気ですね。天気がいいと、
気持ちがいいですね」
2人はこんな話をしました。

そして顔を上げて、空や森を見ました。
毎日見ているものですが、
毎日新しい気持ちがしました。

老人は青年に、
チェスを教えました。
青年はそれまで、
チェスの遊び方を
知りませんでした。

でも教えてもらってからは、天気のいい昼には、
2人は毎日チェスをして遊ぶようになりました。
はじめは老人のほうが強かったのですが、
青年がどんどん上手になっていって
老人が負けることも多くなってきました。

青年も老人も、
本当にやさしくて
いい人でした。
2人はチェスの時は、
一生懸命「勝ちたい！」
と頑張りますが、
戦うのはチェスの時
だけです。

「やあ、これは俺の負けかな。こんなに逃げてばかりいたら苦しいなあ～。もしこれが本当の戦争だったら、大変だ！」と老人は言って、大きな口を開けて笑いました。

青年は、「今日は勝てるかもしれない！」と、チェスに一生懸命でした。

小鳥が木の上で面白そうに歌っていました。

白い野ばらの花からは、いい匂いがしていました。

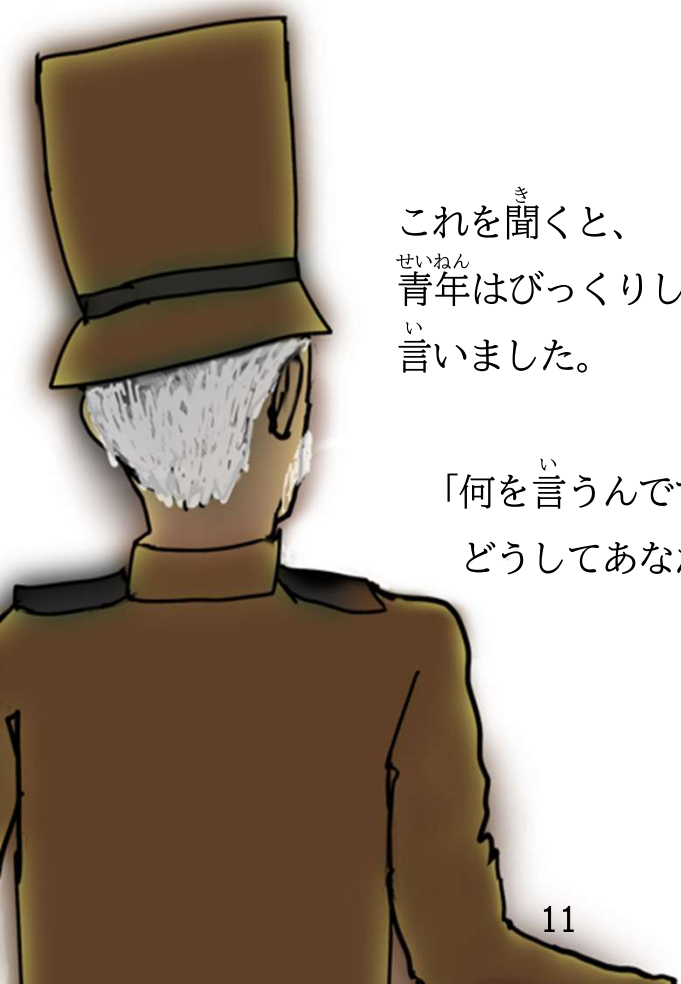
この国境にも、やはり、冬は来ました。
寒くなると、老人は
「早く、息子やその子供たちがいる南の方へ帰りたい」
と言いました。
すると青年は言いました。
「あなたが帰ったら、その後知らない人が来るでしょう。
あなたと同じように親切で優しい人ならいいですが、
“私たちは国が違う。お前は敵だ”
と考える人だったら、私は困ります。
お願いですから、もう少しの間ここにいてください。
もう少ししたら、春が来ます」

冬が終わって、また春になりました。

ちょうどその頃、
この 2 つの国の間に問題が起きて、
2 つの国は戦争を始めました。

それまで毎日楽しく暮らしていた2人が、敵になったのです。
それは本当に、不思議なことでした。

老人は言いました。
「お前の国と私の国は
戦争を始めた。
私はお前の敵になったんだ。
さあ、だから私を殺せ。
そして私の首を持って帰って、
自分の国の人に見せるといい。
みんなは喜ぶだろう」



これを聞くと、
青年はびっくりして
言いました。

「何を言うんですか。
どうしてあなたが私の敵でしょう？」

そして、
「私の敵は、絶対にあなたではありません。
戦争をしているのは国の北の方です。
私はそこへ行きます」

青年はそう言って、
北の方へ行ってしまいました。

老人は一人になりました。
青年がいなくなった日から、老人は毎日、
心から何かが無くなったような気持ちでいました。

野ばらの花が咲いて、朝から晩まで、
その周りをたくさんのミツバチが飛んでいます。
戦争をしているのはここからとても遠いところです。
いくら耳をすましても、遠くの空を見ても、鉄砲の音は
全然聞こえないし、少しの煙も見えませんでした。

青年がいなくなってから、老人はずっと
青年のことを考えていました。
「あの青年は大丈夫だろうか・・」
老人の一日一日はこうして過ぎていきました。

ある日、旅人がここを通りました。
老人は「戦争はどうなった？」とその人に聞きました。
「戦争は終わったよ。小さい国が負けて、
北にいたその国の兵士たちはみんな殺された」
と、旅人は答えました。

老人は
「それならあの青年も
死んだのだろうか・・」
と思いました。

石碑に座って、
老人は長い時間そんなことを考えていました。

しばらくすると眠くなって、
そのままそこで
寝てしまいました。

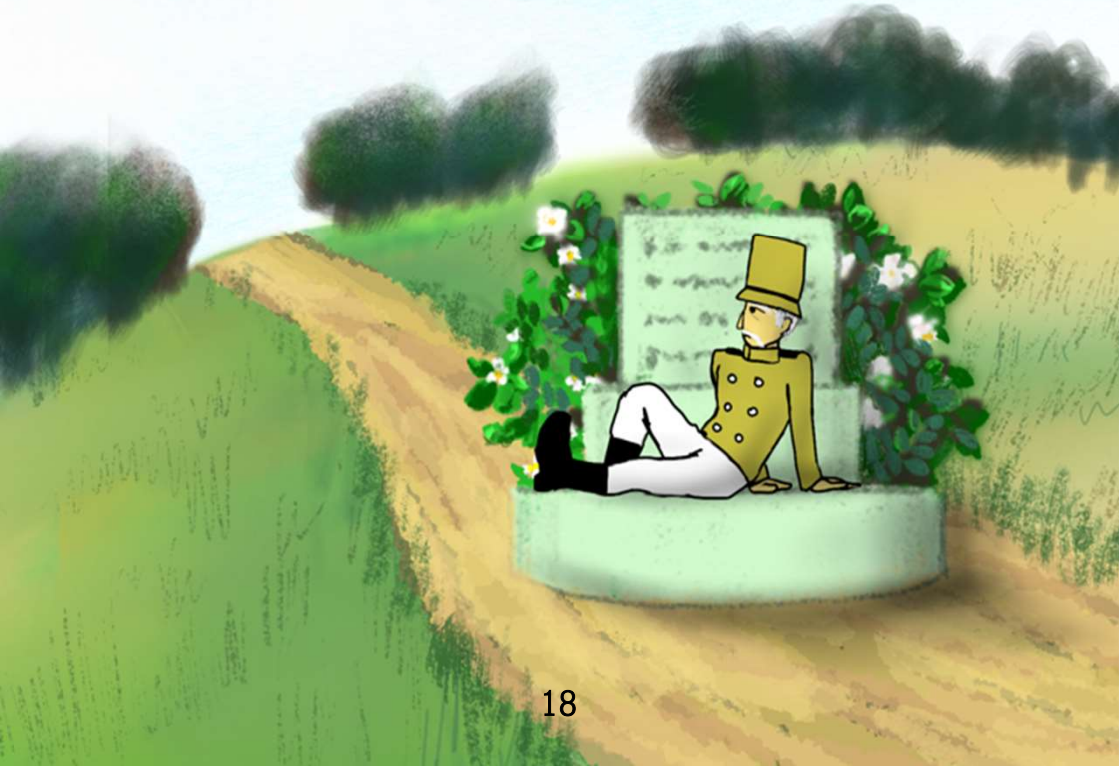
遠くから、
たくさんの人が来る音がしました。
老人が頭を上げて見ると、
小さい国の兵士たちが、
並んで歩いて来ました。
みんな、とても静かです。

一番前で馬に乗っているのは、
あの青年でした！

老人の前を通る時、青年は何も言わないで頭を下げました。
そして野ばらの匂いをかぎました。

老人が青年に何か言おうとした時、目が覚めました。

それは、夢(ゆめ)だったのです。



それから１か月ぐらいすると、
野ばらは枯れてしまいました。

その年の秋、老人は長い休みをもらって、
南の方へ帰りました。

野ばら（の）

発行日　：2022年7月30日
原作　：小川 未明
簡約・絵　：池田 あきつ
協力　：NPO多言語多読主催 －
「中級用読みもの作成講座」参加者
監修　：NPO多言語多読

NPO多言語多読

tadoku.org